

脱炭素化推進事業

小江戸かわごえ 脱炭素宣言

～ 2050年脱炭素社会の実現に向けて ～

近年、地球温暖化に起因すると言われていた気候変動の影響により、国内外で深刻な自然災害が多発しています。

このような現象は、本市においても例外ではありません。多くの河川に囲まれ、過去には、江戸との舟運により産業の発展等の恩恵を受けてきましたが、近年は、河川の氾濫による浸水など、甚大な被害を受けています。このまま地球温暖化が進めば、気候変動などのリスクは更に高まり、今後、一層大きな災害が起こることが予想されています。

将来に向けて、地球温暖化を防止し、気候変動などのリスクを低減するためには、全世界共通の課題という認識の下、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の排出量削減に取り組む必要があります。

2018年に公表された国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の特別報告書において「地球の平均気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることが必要」とされています。

このような大きな命題のもと、私たち一人ひとりが強い危機感を持ち、身近なところから環境に配慮した取組を着実に進め、将来世代に恵み豊かな地球環境を引き継いでいくことは、今を生きる私たちにとってたいへん重要な課題です。

そのために、川越市は、国や他の自治体とともに「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の脱炭素社会を目指し、市民・事業者・民間団体と力を合わせて地球温暖化対策に取り組んでいくことを、ここに宣言します。



令和3年5月1日

川越市長 川合善明

令和3年5月1日に「小江戸かわごえ脱炭素宣言」を表明。国や他の自治体とともに「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の脱炭素社会を目指し、市民・事業者・民間団体と力を合わせて地球温暖化対策に取り組んでいくことを宣言し、脱炭素化を推進しています。



【令和8年度取組み】

- 省エネルギー、再生可能エネルギー機器の普及促進
- ごみ処理に係る温室効果ガス排出量の削減
- 公共施設の脱炭素化



事業費 605,133千円

【事業担当者からのメッセージ】

2050年脱炭素社会を実現するためには、再生可能エネルギーを最大限活用することが求められています。本市は、日照時間が長く、太陽エネルギーの活用に適した地域と考えられることから、平成9年度以降、公共施設へ太陽光発電システムを積極的に導入し、市立小中学校全54校を含む89施設に太陽光発電システムを導入してきました。しかし、設置から20年以上が経過する施設も多くなり、機器の老朽化に伴う故障等が発生し課題となっています。

本事業は、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の社会実現に向け、公共施設に設置された太陽光発電システムや空調設備等を改修し、温室効果ガスの排出抑制につなげることをねらいとしています。将来世代に恵み豊かな暮らしやすい地球環境を引き継いでいく重要性を多くの皆様にご理解いただき、川越における脱炭素化に寄与する事業としたいと考えます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

寄附金の使途

脱炭素化に資する意識啓発の取組や公共施設の改修費用に充てる予定です。



寄附検討企業さまへ

ご寄附いただいた場合、市HPでの公表のほか、寄附金額が100万円以上の場合は、感謝状を贈呈いたします。（ご希望をお伺いする予定です）